

「出東地区スポーツ協会」

出東地区スポーツ協会

理事長 錦織 広徳 (事務局長 大場一志)

令和6年6月1日に、「出東地区体育協会」から「出東地区スポーツ協会」に名称を改めました。活動は、これまでと同じく、14体協の理事さん、各専門部の部長さんにお手伝いいただき、スポーツを通し出東地区の皆さんの親睦をはかり、健康づくりのお手伝いをします。

本年度から、出東地区民体育大会に代わる行事として、出東スポーツ交流大会を開催します。どなたでも参加できる軽スポーツですので、ご家族、ご友人と気軽に参加してみてください。豪華賞品もご用意しています。



待望の児童クラブ新築決定!

出東小児童クラブ運営委員長 美多 大宏

出東小児童クラブの新施設建設が決定しました。工程は令和6年度に設計、令和7年度に建設、令和8年度から利用開始で、場所は旧出東幼稚園の園庭、定員は50名(現在の定員29名)の施設となります。

現在は小学校の1教室を借りて児童の預かりを行っています。しかし、年々申込数が増え、不許可を出す数も増えています。運営委員会はもとより、地域の方々からも出雲市へ環境改善の要望を重ねてきていただきました。おかげ様で新築が決定しました。厚く御礼申し上げます。

ソーイングクラブ

完成した時の達成感や満足感も魅力

自分の手で作り上げることのできる魅力的な趣味の手芸。かわいい干支の置物や季節の飾り物、実用的な袋物など、自分だけのオリジナル作品の製作を、時間内の完成を目指し楽しく頑張っています。必要な材料の準備から、しるし付けまで先生がしてくださるので、作り上げることに集中できるのも魅力です。

メンバーは6名で、お茶をしながら和気あいあいの雰囲気の中、毎月4月曜日の午後1時半から4時までコミセンで活動しています。会費は月1,000円、材料費はおおよそ1,000円以下の実費です。久しく針を持ったことがない方や手芸に興味のある方、私たちと一緒に手作りの楽しさを味わいませんか?



Instagram

出東コミュニティセンターのInstagram始めました。最新情報をアップしています。フォローよろしくお願いします。



10月 出東地区 行事予定

- 3日(木) ふれあいサロン(1班) / 虹教室(3年生)
- 5日(土) ふるさと歴史探訪
- 9日(水) 虹教室(1・5・6年生)
- 12日(土) 出東健康ウォーク
- 17日(木) コミセン喫茶 / 虹教室(4年生)
- 18日(金) 文書配布
- 20日(日) 出東地区文化祭
- 22日(火) 食の視察研修
- 23日(水) ふれあいサロン(2班) / 虹教室(2年生)
- 26日(土) 廃材でDIY教室
- 27日(日) 荘原・出東クリーン大作戦

※2日・9日・16日・23日・30日、毎週水曜日は「あいさつデー」

10月のコミセン喫茶のご案内

人と会って、楽しく話すこと、人とのつながりを作ること、これが一番の健康法。毎回、喫茶を楽しみに来てくださる方もたくさんいらっしゃいます。お友達や近所の方を誘ってお気軽にお越しください。お待ちしております。

◎日 時 10月17日(木) 午前9時30分～11時30分
(この時間ならいつでもOKです)
◎会 場 出東コミュニティセンター
◎参加費 200円

The Voice

～皆さまからの声～

5月末に地区防災訓練がありました。昨年までは日曜日の朝8時開始でしたが、今年は平日、しかも時間無通告!大きな変革です。訓練当事者は一日中気掛かりで大変だったと思います。また、8月3日には「たなばた会」大盛況でびっくりしました。何でも今まであるものを変えるにはエネルギーが必要です。地区民みんなが納得するイベントは出来ないと思います。ですが、みな「少しでも良くしよう。喜んでもらいたい」との思いで、変わることを変えることは大賛成です。新しい出東に期待しています。

●皆さんの声を募集しています!!

(中洲 60代 男性)

ご寄付お礼

皆様からお寄せいただきましたお志は、出東地区自治協会を通じ地域の福祉事業に活用させていただいております。

香典返し 金一封 高橋 佑輔 様(中洲新田)
香典返し 金一封 錦織 史治 様(瀬向)
香典返し 金一封 周藤 利治 様(昭和)

ご厚志誠にありがとうございました。

アンテナ 出東

発行/出東コミュニティセンター企画広報部 お問い合わせ/TEL 0853-62-5033 FAX 0853-62-5039

10月号
2024.9

●世帯数1,284戸
●人口3,830人
男性/1,890人 女性/1,940人
令和6年7月31日現在



7月30日、日本武道館で第58回全国道場少年剣道大会が開催された。「出東剣道スポーツ少年団」は地区の予選を勝ち抜き、島根県代表としての出場権を獲得。全国から約700チームが参加した試合は3人制団体戦によるトーナメント形式により行われた。(通常5人で1チームだが、近年は諸事情により3人で1チーム)

錦織、新田、瀬崎の3君はいずれも出東小の6年生で、同じく6年生の辻ノ内中央泳、高木志龍君とともに5人で中学年のころからお互いに切磋琢磨し、心や体を鍛え、少年団を引っ張ってきた。6年生となり、子供たちの対話力が向上したことにより、「剣道がさらに上達し、今回全国大会に出場できるまでに成長できた」と飯塚監督は話す。試合前、対戦相手の傾向や特徴を分析し、チーム内で話し合えるようになった。試合後、どのような狙いをもって試合をしたのか、次に改善しなければならぬ点は何かを自分の言葉で監督に伝えることができるようになった。大会では、大阪府の三剣会(みつるぎかい)と対戦。残念ながら初戦敗退した。監督は「終盤までどちらが勝っても

錦織、新田、瀬崎の3君はいずれも出東小の6年生で、同じく6年生の辻ノ内中央泳、高木志龍君とともに5人で中学年のころからお互いに切磋琢磨し、心や体を鍛え、少年団を引っ張ってきた。6年生となり、子供たちの対話力が向上したことにより、「剣道がさらに上達し、今回全国大会に出場できるまでに成長できた」と飯塚監督は話す。試合前、対戦相手の傾向や特徴を分析し、チーム内で話し合えるようになった。試合後、どのような狙いをもって試合をしたのか、次に改善しなければならぬ点は何かを自分の言葉で監督に伝えることができるようになった。大会では、大阪府の三剣会(みつるぎかい)と対戦。残念ながら初戦敗退した。監督は「終盤までどちらが勝っても

県代表として
全国道場少年剣道大会に出場
出東剣道スポーツ少年団



Kirari shuttoubito

キラリ
出東
びと

代 表 : 錦織 淳次 さん
技 術 指 導 : 飯塚 央 さん
先 鋒 : 尾原 健志 さん
大 中 堅 : 新田 真 さん
将 士 : 瀬崎 真 さん
(6年)



出東小学校開校150周年記念

出東小学校校長を務められた方々に、当時の思い出を語ってもらいます。

〈シリーズ No.2〉

出東小学校での思い出



平成26年4月～
平成28年3月 校長在任
園山 哲男

休み時間に職員室の外の階段に腰掛け、校庭で元気いっぱい遊ぶ子どもたちの様子を見るのが私の日課の一つでした。子どもたちが遊びの中で見せる姿は自分を飾らない素の姿です。私はそこから出東小教育の成果や課題が見えてくるのではと考えていました。

私が階段に座っていると、その隣にちょこんと座り、私と一緒に校庭の草花を眺めて季節の移ろいを感じてくれる児童もありました。そして、学校であったことや家庭であったことなどを話してくれる子どもたちもいました。そんな子どもたちと共に過ごす何気ない癒しの時間は、私にとってこの上ない幸せを感じるひと時でもありました。また、子どもたちが生き生きと遊ぶ姿や話してくれることから、私はいつも、出東の子どもたちの逞しさや素直さ、優しさに感謝するとともに、その成長ぶりを大変嬉しく思っていました。

このような児童の成長があったのは、その成長を楽しみに、日々の職務に心血を注いでいた教職員集団の教育力のもと、いつも温かく出東小学校教育を支えてくださった地域の皆様や保護者の皆様のお力添えのおかげだと思っています。出東には子どもたちがすくすくと育つ素晴らしい教育的風土があったのだと、今更ながらに感じているところです。



出東小開校150周年記念
イメージキャラクター
「いっちょちゃん」

出東小学校は明治7年(1874)の開校より、今年で150周年を迎えます。

6月
11日

火

いざという時のために
救急法体験を実施

専門部研修



日本赤十字社島根県支部による救急法の体験講座が行われ、専門部員の方々や自治協会役員、サークルの皆さんなど普段コミセンを利用する方々21名が参加し、講師の立脇さんから救急法について指導を受けました。

心肺蘇生術では、押す深さは5cm、胸骨圧迫を30回・人工呼吸2回を1セットに、1分当たり110回のペースで行うよう指導を受けた後、早速ダミー人形を使いながら実践。その後はAEDの使い方について、ガイダンスに従いつつシートを貼る必要があることなどを学びました。その他、気道異物除去、熱中症の対処法など参加者全員真剣な表情で学んでいました。立脇さんは「いざという時は自分が率先して行動してほしい」と呼びかけました。

7月
19日

金

支え合い活動の実施に向け、
研修会を開催

出東地区社会福祉協議会

普段の生活で困っていることを地域の力で支え、サポートしようと、地域支え合い研修会が出東コミセン集会所で開かれ、出東地区の住民17名が参加しました。

出雲市社会福祉協議会の大錦清文さんを講師に、人との繋がりを作ることの大切さと地域での支え合いの必要性について学んだ後、利用される方が出来ないことを支援する活動＝具体的な例として、掃除や買い物、炊事、草刈り、病院などの付き添いといったニーズが高いことなどを紹介。

その後、参加者は複数人のグループに分かれ、どのような支援を受けたいかをカードで選び、他の人がそれに応える「支え合い体験ゲーム」を実践し、支え合い活動のイメージを感じ取っていました。主催した中間会長は「今後どう展開していくか検討していきたい」と話していました。

6月
22日

土

「出雲」と呼ぶ由来は
斐川にあった?!

自主企画事業/企画広報部

出雲神話と荒神谷－出雲の原郷斐川町－をテーマにした講演会が出東コミセンであり、荒神谷博物館の藤岡大拙館長が熱弁を披露、33名が熱心に受講しました。

冒頭、昭和59年7月に神庭で銅剣358本が出土したニュースを紹介。出雲地方には全国で唯一完全な形で「出雲国風土記」が残されていることや、「古事記」「日本書紀」の内容を説明しながら、出雲のスケールの大きさを軽妙な「藤岡弁」を交えてトーク。最後に「出雲」は斐伊川沿いの出西地区から空を眺めた時、雲が起きるのぼったこと、斐伊川の出水の後一面草原が広がった逸話から出雲の名は葦茂から生じた一との2つの説を挙げ、「とりわけ斐川町は出雲の中心地であった」と力説しました。

7月
26日

金

LINEとスマホ決済にチャレンジ
スマートフォン体験講座

自主企画事業/企画広報部

ソフトバンクスマホアドバイザーを講師に迎え、18名の方が「スマホデビューからもう一步!」と題したLINEとペイペイの使い方について学びました。

LINEでは、グループLINEの作り方・使い方、スタンプや写真の送り方を学んだほか、音声で簡単に文字入力できることを実践し、スマホには多くの便利な機能があることに参加者の皆さんは驚いた様子。スマホ決済では、これからのキャッシュレス時代に対応できるように、QRコードを読み込む決済方法や、金額表示の方法などを熱心に練習し、「今日学んで明日から実践」を目指していました。

8月
3日

土

出東子どもたなばた会

自主企画事業/地域づくり部・子育て部



旧暦のたなばたの時期に合わせ、地域の子どもたちを楽しませたたなばたの思い出を作ってもらおうと、昨年から企画。今年は、小学校開校150周年にちなみ、盛り沢山な内容で行われました。

会場には、焼きそばやたこ焼き、唐揚げ、かき氷など、PTAや地域団体が出店する多くの屋台が立ち並び、たなばた太鼓やお化け屋敷、雑巾がけレースなどで賑わいました。また会場には多くの中学生ボランティアが参加し、各ブースで活躍していました。

開始時間の午後5時になると続々と地区住民が集まり、屋台で飲食やゲームを楽しむとともに、トラック荷台上から太鼓を叩く伝統のたなばた太鼓でオープニングを盛り上げました。



最も興味を引いていたお化け屋敷。6時スタートとともに長蛇の列ができ、暗い部屋の中に入ると様々な仕掛けが。出てきた人からは「マジで怖かった」との声が聞かれました。

7時から、雑巾がけレース「Z-1グランプリ」が集会所で開かれ、年齢・性別関係なく熱戦が繰り広げられ、周りの観客からは大きな声援が飛び熱気にあふれていました。

とにかく子どもたちを楽しんでもらおうとたくさんのボランティアによって運営されたたなばた会。スタッフの一人は「今後もさらに知恵を出し合い盛り上げていきたい」と話していました。

かぼちゃってどんなイメージ!?
オリジナルなかぼちゃ作ってみよう

出東地区青少年育成協議会

7月
30日

火

臨床美術講師の青木智美さんによる、「自分だけのオリジナルかぼちゃを作ってみよう!」の教室が行われ、新聞紙や和紙でできたかぼちゃのオブジェを作りました。

本物のかぼちゃの見た目、色の観察をした後、触ったり、食べたりし、「ここだけ色が違う」「ポコポコした形で触るとガサガサ」「蒸したかぼちゃは甘い味がする」など感想が出たら、新聞紙を丸め、観察したかぼちゃの形に似せてオブジェを作っていました。あらかじめの形が出来上がると、その表面に味やにおいのイメージを色で表したら…と、色とりどりの和紙を貼って完成させました。仕上がった作品を見た保護者は、「見た目だけでなく味からの表現が興味深かった。よく特徴を捉えていた」と話していました。

8月
17日
18日土
日

コミセンお庭キャンプ

自主企画事業・子育て部、共催・出東地区災害対策委員会

初心者向けのキャンプとして、また災害時での避難所生活でも役に立つ体験をしよう!という目的で、コミセンの広場を使い、子どもたちによるキャンプを行いました。

当日は、島根県キャンプ協会の講師2名により、テントの設営やステンレス製のかまどと昔ながらの羽釜を用いた炊飯の指導、ファイヤースターターを用いた火起こしの体験をしました。その後、羽釜で炊飯にチャレンジし、地域ボランティアの方々が作ったカレーを美味しくいただけていました。

夜になると廃油キャンドルづくりを体験。クレヨンで色を付けた廃油をクリアカップに2〜3層にして入れ、おしゃれなキャンドルに仕上げました。工作が終わった後は湯の川の温泉水でのシャワーで汗を流しました。

夜にはさわやかな風がテントの網窓を通して涼しく過ごすことができ、テントの布越しに夜空の星も見られたそうです。あつという間に眠られた人や、おしゃべりに夢中になって遅くまで起きていた人もいて、皆思い出に残ったキャンプ体験となりました。



尼子氏再興の夢

『勝久寺』

●斐川町沖洲



田園の中に佇む勝久寺のお堂

沖洲・勝久寺自治会にある勝久寺、境内のお堂には本尊観音菩薩(仏師兼次作と伝わっている)が安置される。

その由緒について一説には、かつて毛利氏に滅ぼされた尼子義久の家臣・山中鹿之助が、京都の東福寺で修行中であつた尼子の遺族尼子孫四郎勝久を奉じて尼子氏再興を画策。その後京都から隠岐に渡り同勢を集め、美保関から約三千騎余りの軍勢とともに法吉村真山に立てこもり、付近の十五城を奪還した。

豊後の大友氏と交戦中だった毛利氏は、この報を聞き元春、隆景の大軍を率

出東歴史散歩

Vol.10



いてこの地に殺到し大合戦を演じた。尼子氏に勝ち目はなく再び隠岐の国へ逃げ帰ることとなった勝久は、出雲川の下流沖之洲上で家伝来の守本尊をこの地に下し、「我らを勝利させ尼子を再興させ給え。再び入国できれば大寺を建て本尊をお祀りするので、それまでこの地にとどまって将来の幸を得させて」と本尊を託した。

その後、勝久は織田信長に援助を願い、播州上月城に入り再興したが、再び毛利軍が大学押し寄せ遂に滅びた。

こうして、由緒正しい寺堂ではあったが、尼子氏が滅びたため再興はかなわなかった。当時は寺田、境内も相当に広く、お堂も今日よりも大きなものであったが、無住のため人々に顧みられることもなく次第に荒廃し縮小したという。



▲観音菩薩を安置する厨子

おじゃまします
出東のお仕事拜見!

Vol.10

組子の欄間に挑戦!
古川木工

古川 勝さん



「お客様に求められたことは、何でもやる」を念頭に、お客様の生活が楽になるよう一緒に考え、製品を作り上げる古川木工の古川勝社長。

工場に入ると、心地良い木の香りに包まれる。ここでは様々な木材加工機械が並び、建具や家具の設計、製作、修理を行っている。そこから生まれる木材加工品は、唯一無二の存在として、生活の中へ溶け込んでいく。

先代の勝広さんから事業を受け継ぎ、2代目として、会社を経営する勝さん(54)。

古川木工の前身は、昭和20年代頃に勝さんの祖父母が、近くで豆腐店を経営していたことから始まる。昭和50年頃からは、初代である勝広さんが木材製品の加工に携わっていたことから古川木工を立ち上げた。平成25年頃、2代目である勝さんに経営が引き継がれ、地域に愛される古川木工として現在に至っている。

最近では、高度な技術力が問われる組子を用いた欄間の製作に取り組んでいる。また、バリアフリー化に伴うリフォームでは、開き戸から引き戸へ変更するなど、生活に密着した木材加工品づくりを行っている。

古川社長は、今年度から出東地域安全推進員や出東交通安全協会の役員、出雲市交通指導員として、新たな地域貢献活動に取り組んでいる。「活動を通じて多く仲間巡り合い、地域の方々とつながりを大切にしたいと話す古川社長」。お客様ファーストを念頭に今後も生活に密着した木材加工に取り組んでいる。

INFORMATION

古川木工

●斐川町黒目1556 ●TEL0853-63-3347 ●従業員3名